

## 公開・国際シンポジウム「礼拝像と奇跡 東西比較の試み」

## はじめに

秋山 聰 / 冨澤 かな

以下は、2008年5月31日に、グローバルCOE『死生学の展開と組織化』主催公開・国際シンポジウムのシリーズ「死生と造形文化」の第二弾として、東京大学本郷キャンパス法文1号館1番大教室を会場に開催された『礼拝像と奇跡——東西比較の試み』の報告書である。当日は美術史学会全国大会第62回全国大会の第2日にあたったこともあり、本シンポジウムは美術史学会の後援を得て美術史学会同時開催行事ともなった。このため参加者も優に400名を越え、会場の向かい側に位置する2番大教室をも開放して映像映写を行なうほどの盛況を呈することとなった。午後1時半から事業推進担当者である下田正弘教授による死生学の紹介でもってシンポジウムは開始された。いずれの発表、コメントも極めて内容の充実したものであり、熱を帯びた雰囲気が会場を占めていたが、進行の勝手際もあり、当初予定されていたディスカッションを行なう余地のないまま6時過ぎに閉会のやむなきに至ったことが悔やまれる。ただ、前日に催された美術史学会シンポジウム『世界美術史の可能性』に参加されたジョン・オナイアンズ John Onians 氏（イースト・アングリア大学教授）やデヴィッド・キャリアー David Carrier 氏（ケース・ウェスタン・リザーヴ大学教授）等から、コメントを頂けたのは幸いであった。なお前回のシンポジウム『聖遺物とイメージの相関性——東西比較の試み』と同様に、本シンポジウムについても別途英文によるより詳細な報告書の刊行を予定している。

末尾ながら、本シンポジウムにご参加くださった方々をはじめ、運営に尽力されたグローバル COE 特任研究員、若手支援研究費受給者、美術史学研究室の学生諸氏、さらには困難な通訳・翻訳作業に取り組んで下さった方々に篤く御礼申し上げます。

(あきやま・あきら 東京大学大学院人文社会系研究科准教授／グローバル COE プログラム事業推進担当者)

(とみざわ・かな グローバル COE プログラム特任研究員)

